

前略 にせんだみつお様

樋脇和湖

前略 にせんだみつお様

初めてお便りします。平成二十二年五月六日(日)にJR浦和駅東口でお会いした山田と言います。と言ってもお分かりにはならないですよ。当然です。名前も述べておりませんでしたが。

当時の私の日記には、

「にせんだみつお」が一日店長として(GARDEN 浦和東口店の)タスキをして来たので、呼びとめて、署名をお願いした。中野光雄で「自宅だよ」と言っ書いてくれた。ありがとう。後でお礼の手紙を出そうと、あ

と新聞投稿にも出そうと、思った

と書いてありました。(呼び捨てでごめんなさい。)

実は、ズーと気になっており、やっと先日(十一月十七日)に 貴方様の住所と本名を書いてあった書類を探し出しました。日記もそうでしたが。

ご署名いただいたのは、「埼玉に公立の夜間中学を作る会」の署名でした。私は、「夜間中学を作る会」の支援者として係らせていただいていたの署名活動中だったので。

にせんだ様を見かけて、かなり躊躇しましたが、ええーいままよ！ 当たって砕けろ！ の精神で(○型なので勢いで行く！)の気持ちがある？ (かな) お願いしてみました。その結果として日記に書いたように気さくに、ホント気さくに

書いていただき嬉しくなり感謝しました。

当時の率直な気持ちは、芸能界には全く興味はありませんでしたが、あそこまで有名になった、にせんだみつおも落ちぶれたものだ。と（誠に失礼なことでしたが）貴方が、パチンコ屋さんのCMに出ているとは知らずに。

また芸能界の厳しき（これも私にとつては、知ったことではないのですが）と生きる・生活するための活動に少しは、理解できると思っていたようです。

今は、久しぶりにＴＶで活躍する姿に（見るのはドラマのほかドキュメンタリーとニュースが中心なので）頑張っているなあーと応援してみています。マジですよ。

にせんだ様のことだから、どこかでしぶとく芸能界で生きているとも思ってはおりましたが。

今回やつとお礼の手紙を出すことが出来ました。送りましたイモは、自然栽培（無農薬・無肥料・無除草剤）で育てた（かかってに成長した？）ものです。安心して食べてください。

「新聞投稿」は、もう少し待ってください。多分、たぶんですが出したいと思います。（?）

なんで今頃かと言いますと、平成二十二年十二月末に会社を退職し、二十三年三月十二日に実家のある富良野に帰ろうと決めていました。十二月に退職しても雪の季節の北海道に

は帰れませんので、特別に社宅に住まわせてもらっていたのです。

引越しは三月十二日とし、その日の夕方大宮駅発一九時三〇分北斗星1号ツインDX、食堂車「グランシャリオ」で懐石御前を食べてゆつくりと都会暮らしお別れをする最後の旅を味わって帰ろうと決めていました。二十四年間首都圏で北海道の田舎者が頑張って働いてきたのでその自分への褒美として、また一緒に私に着いてきてくれ子供たちを育て上げわがままな私の世話をしつつ苦勞をかけた母ちゃんへのお礼として、少し贅沢な時間を持つてもいいかなと思いい決めています。

本当は、（ほんとうに！）人生としても最後の乗車であろう特急カシオペアにしようと思っていましたが行日が奇数日のため諦めました。「山田さんのためなら、必ずカシオペアを取ってあげますよ」と言ってくれた後輩の上位職の方もいたんですが、残念です。北斗星も同期の方が確保してくれました。本当にありがたくこんな私のためにと感謝の気持ちでいっぱいです。

しかし、理想は全く根底から覆されました。引越しの前日がああ東日本大震災発生の日です。あの悲惨な状況をＴＶでみながら思案しました。鉄道が動かなければ荷物は出せない。だったらこのまま荷物を梱包しないで（九割は終わっていま

したが）ここに残るか、また地震の発生状況次第でさいたま市だつてどうなるか分からないし、被災された方々の現在の、そしてこれからの生活を人生はどうなるのだろうか、自分だつたらどうするのかと思ひ巡らしながらも……

しかし、恥ずかしながら己の都合を優先させていました。

三月十一日一四時四六分は、テレビを見ながら、荷物を梱包していましたが、あの物凄い揺れに驚きつつもベランダ側の窓を開け、しがみつき揺れに耐えていました。いざとなつたら中庭の芝の上に飛び降りようと思つていたようです。電柱と電線のあの物凄い揺れを目の当たりにしながら……。

母ちゃんは、玄関のドアを開け玄関口にいたようです。社宅は四回建ての二階で崩れ落ちたら避難の手立てはどうだったのかしら。それでも何とかなるだろうと思つていた節があるのです。

続いてすぐに二度目の地震では、さすがに危ないのではないかと二人そろつて表にでました。既に何人かが出ていて、社宅と社宅の間の駐車場が大きく波打ち停めてあつた車が浮きあがつていました。信じられぬ光景です。こんな大きな地震に遭遇したことはなかったのほんとに慌てました。震源地はどこだ、との声飛び交つていました。

母ちゃんは、うちの向かいのドアを叩き、「早く外に出なさい」と生まれて間もない赤ん坊を抱えている若妻を連れて

降りてきて、更に中階段下でうずくまっている女性に、「そこにいたら危ないからこっちに來なさい」と声をかけ迎えに行っていました。その女性は、十六年前の阪神・淡路大震災の被災者で、当時の記憶がよみがえり恐怖心で動けなかつたと言つていたと母ちゃんが教えてくれました。

まさかそんな事が、二度の大震災に遭うなんてウソでしょうと、直接の被害者ではないにしろ驚きました。

母ちゃんのそんな行動に驚き、女性だからそう接せられたのかなあとか准だが看護師の精神が発揮（患者の命を救うという崇高な理念に）されたのかなと感心しました。俺はといえば、災害が発生してからが出番か、と考えていたのです。

この違いは、なんだ。いつもは俺が指導的立場にいたと思つていたのに、情けない。

余震が落ち着いたので、部屋にもどりテレビをつけると、（地震の時には、消してあつた）マグニチュードは、国内の観測史上最大の9・0（当時は8・8）震源地は、宮城県・牡鹿半島の東南東約一三〇^{km}で、震源の深さは約二四^{km}。

地震による被災地の様子から津波の襲来によるあの形容しがたい光景が映し出されてきた。真黒な大蛇が濁流が平野を畑を廻り街を車を人々を、そしてあの畑の白いピニールハウスを飲み込んでいくのだ。映画のロケでもしている

かのように……

またヘリコプターからの映像に、津波が来ているのに気付かずにか、気付いて逃げているのか、逃げる方向が反対だよ！ はやく教えてあげろよ何故教えてあげないと心の中で叫んでいたのだ。

文字通りテレビに釘付けだ。それでも夕食を摂り、明日のためにと〇時に寝てしまったのだ。多くの帰宅困難者がいたことも知らずに、考えずにだ！

引越業者への連絡・相談もできずに（電話が繋がらず）担当者の携帯電話の番号も聞いていなかったので不安な一夜を過ごしました。

一応は、ここに残ることにしようと思つて自分は腹を括りましたが。

翌朝に、業者の担当者から電話が入り（いやーホツとした！）貨物用コンテナも確保してあるし運送スタッフもなんとか間に合いそうだからとのことでした。

悩んだが、貨物用コンテナに荷物を積んでしまえば何とかなるだろうと、鉄道が今は寸断されていても、一月もすれば復旧するだろうし、それまでは生活も大変だろうが、富良野にも届くであろうと。

この辺は、〇型のおおらかさで、というより能天気さかな、

そんな感じでじゃやろうと決断しました。

十二日は、娘夫婦、息子夫婦そして友人のご夫婦から問い合わせがあり（前もってお手伝いをお願いしてあったので）、手伝いをお願いしました。引越業者の人々も順次集まってくれ、さすが専門家の皆さんの動きだ。リーダーの指示のもとテキパキと梱包した段ボールが下ろされ貨物用コンテナ三個分の荷物が、（どこにこんな荷物が収まっていたんだろうと思うほどの量）トラックに積み込まれていく。一時四〇分に残物品のないことを確認し終了のサインをする。

昼食は、友人のご夫婦と一緒に近くの蕎麦屋さんで、感謝の意を込めて食べ、仲間たちへ渡して貰いたい書類等をお願いしました。申し訳ない。

そして部屋・ベランダの掃除を遅れてきた息子夫婦にも手伝ってもらい、先に来ていた娘夫婦・孫と一緒に母ちゃんが作りたいなり寿司を食べる。えーつと、いつ作ったのかな思いつけないなあ……

その後、息子には、今まで乗っていた車を譲って帰らせ、母ちゃんは、娘夫婦の車で先の上尾まで行ってもらった。

俺は、大宮駅で「北斗星」のキャンセルをし、びゅうプラザの窓口で明日の羽田発旭川空港行きはあるかと尋ねると、俺にとってあの時は奇跡と思えるほどの確率で低運賃航空機

が運航していることがわかり即座にチケットを購入しました。ここでは、「贅沢な時間」のことなど頭の片隅にもなかったのですね。

とは言え明日の鉄道が運行されていなければ願いはかなわないことだが、本数は少ないだろうが運行されることを祈るしかなかったのです。

その夜は、娘夫婦の家に泊めてもらい風呂にも入れてもらい狭くて窮屈だが二三時ころ眠りました。

十三日は、上尾駅まで車で送ってもらい娘夫婦と孫二人にホームで見送ってもらい義理の息子に「娘と孫を頼む」と言えなかったが涙の母ちゃんを慰めて上野駅に向かう。途中で時間調整があるが、早目に出たお陰で、無事羽田空港第一ターミナルビルに着きました。ゲートは、33番でスカイマーカー711便一時発だが、搭乗前間に余震があり、本当に飛ぶんだらうかと不安になる。それでも一五分か二〇分遅れで離陸する。飛行機は、大震災地の上を飛んでいった。申し訳なさの気持ちを持ちつつ……

十二日の午後三時三十六分ごろ東京電力福島第一原発建屋で爆発があり放射性物質が飛散・拡散したとのこと。この情報を知ったのは、十三日の夕方、新聞を買ったのは、空港だと思いがどこの空港か思い出せない。

旭川空港に無事着き、レンタカーを借りて一路富良野へ、

途中でラーメンを食べる。やはり美味い！ のひとこと。

途中割愛しますが、

引越し荷物は、三月二十三日に到着し二十四日に運び入れました。

母ちゃんは、二十二日で旭川の病院で診察してもらい「記憶障害」という病名ですぐに入院が決まってしまった。その入院病棟への移動の最中に引越し業者から電話が入り「引越し荷物が届いたがいつにしますか」と、それで少し待たせたので看護師から睨まれてしまったが、そうは言っても俺には大事な用件なんです。SCU緊急入院病室を確認してから、業者の方に二十四日の午後からと伝えた。俺が母ちゃんの分まで動き指示をすればいいのだと割り切って。

一月かかってもしようがないと思っていたのに、十日間で届くとは感謝です。東北本線は壊滅的でも、奥羽本線側を回してくれたのだろうとまた感謝しました。

病気の原因は、大震災の影響と、北海道へ帰ることに賛同してくれてはいたが二十四年間暮らしてきた娘・息子との別れの辛さを含め環境の変化が大きな要因だったのだろうか。俺の母ちゃんに対するいたらなさもあつてのことだと思っただが。

私たちが、北海道から東京圏にきた時にもやはり環境の違いと人間関係でノイローゼになられた奥様がおられました、

何と言つていいか分かりませんでした。今も何と言つていいのか、心配しないでゆっくり養生していてよ、と母ちゃんに言うしかないのです。

お陰様で母ちゃんは、四月十一日に退院、入院期間は二十一日でした。

余談ですが、引越しと言えば、私たちが北海道から出てきたとき、手伝いに来てくれた仲間たちが、「東京の水は合わないからポリタンクで水を持ってきたようだよ。」と北海道人はどれだけ神経質なんだろうかと一部では噂になったようです。そう思えたかもしれませぬ。しかし本当は、「水」ではなく「焼酎」だったのです。透明の四辺のポリタンクで名前は、ホワイトリカーだったかなあ。東京圏の皆さんから見れば不思議な光景ですよ。笑ちやいますよホント。まあその内の一人が俺でもありましたが(笑)

それから一年後、農業をやっていた実家の土地を活用し木村秋則さんの「奇跡のリンゴ」に出会い「自然栽培」と言う方法でイモの栽培を始めました。今年で三年目、一年目は「ビギナーズラック」、二年目は「二年目のジंकクスで」で散々。三年目の今年は、送りましたイモのような、まあまあ出来栄え「三年目の正直」でしょうか。

少し解説しますと、一年目はトラクターで耕しジャガイモ

の種を植え手鋸で土を蒲鉾型にかぶせていくいわゆる「培土」を行いましたので上手くいったのですね。規模も小さかったので、でも肉体は悲鳴を上げていました。腰痛と肩の痛みで大変でした。秋の収穫も芋掘用鋸で手掘りでした。

二年目は、畑を耕さずそのまま草の中に植えましたから当然の結果ではありました。この時も培土は手でやっておりましたが、それを見かねたのか、農業をやっている同級生が小型の培土用の機械を貸してくれたのです。慣ればこれはさすがに楽でした。が、草と共生のところは草が絡むと言うか草の根が切れず土をかき上げることができずに機械の使用を断念しました。草の根つこの力強さに敗れた一年でした。三年目は、小型の耕耘機を購入し畑を耕しましたので、それに培土機も買いましたし、春の耕す前には、鋸で草の根を掘り起こしましたので上手くいったのだと思います。しかし、物事には完璧ということはなく、様々な出来事と天候不順もあり俺の作業能力の限界も越えており、更に耕作面積を増やしたことが大きな原因となりジャガイモの半分は雪の下に眠らせてしまいました。申し訳ないと言わなければならない。

しかしながら自然環境を破壊せずに農業を行うにはこの方法しかないであり、何とか確立するために俺が率先垂範す

るしかないのです。何人かの方が、大規模でもチャレンジしておりますので販路の拡大を含めて応援していきたいと思っています。

今の俺のやり方は大規模農業ではなく、大型機械も使わずに手作業といつてもいいほどなのでイモを掘り出す時の、出てきたイモの形・色は何とも言えなくいいのです。代表して表せば、ノーザンルビーというイモは真紅、マチルダは黄金色、タワラムラサキは紫・黄土色等のマダラ模様と、何とも言えぬ愛おしさ感じてしまいます。手で掘るからイモの新鮮さそのイモ本来の色がいいのです。大きさにも感動してしまいます。キタアカリは、円形で直径一〜一二センチもあるのです。またマチルダは、長さ一八センチの円柱形で周囲も一八センチもある物もありますから正に驚きです。でも所詮ジャガイモじゃないかと現行栽培と無農薬・無肥料・無除草剤の自然栽培の価値観が理解されず同一視されるのが悔しいですね。時間をかけてその違いをジャガイモ本来の美味さと安全性を訴えかけ続けるしかないと思っています。

私たちの取り組みは、ジャングルの火事でのハチドリのように、あの小さな嘴で水をすくい火を消そうとするようなものでしかないのかもしれませんが、今自分ができることをやるしかないと思っています。

にせんだ様には、どうでもいい内容の文章をダラダラと書いてしまいました。何故か書いておかねばならない内容であると思ひ、にせんだ様へのお札の文章のついでに書かせてもらいました。ひどい男でしょう。にせんだ様をダシに使っているんですから。ドンドン割愛し必要なところだけ読んでください。

そんなこんなで、やっとにせんだ様への約束が果たせると思ひジャガイモを送らせていただきました。

にせんだ様の住所の書類も引越のどさくさで（一纏めにはしてありましたが）どこにしまったのか中々思い出せず、やっと見つけたのです。

夜間中学の実態もやっと国会議員の先生方に認識され始めました。小さな私たちの取り組みの成果でもあると思ひます。賛同して署名いただいた用紙は、毎年まとめて埼玉県知事に提出してきました。

ご署名いただいたことに心から感謝申し上げお札の言葉とさせていただきます。

にせんだ様の今後の活躍を楽しみに応援させていただきます。

草々